

パイオニアとして。(2021年12月20日)

長崎大学 学生のみなさん

こんにちは。

長崎大学人、河野茂です。

早くも2021年も最後の月です。皆さんにとって、2021年はどのような年だったでしょうか。

今年も新型コロナに翻弄された年ではありましたが、そのような中で私の記憶に残ったのは、1年遅れで開催された東京オリンピック・パラリンピックでの若い世代の選手の活躍です。

特に、今大会から新競技となったスケートボードの10代の選手たちの、競技に向き合う姿勢は強く印象に残りました。

10代半ばから後半が多くを占める選手たちが、この大舞台で大胆に難度の高い技に挑戦し、成功した者も失敗した者も互いに、その敢闘を称えてハイタッチをする姿に、何とも言えない爽やかさを感じたのは私だけではないでしょう。

極めつけは、技の難度を落とせばメダルを狙えたはずなのに敢えて3回の試技とも大技にチャレンジして失敗。

結果4位に終わった日本の選手です。競技後、国内外の多くの選手に担ぎ上げられ、賞賛される様子を見ていると、若い世代の人たちは明らかに新しい価値観を生み出していると、痛感させられました。

私は、年間を通して多くの学外の方と面談する機会をいただきます。

コロナ禍により、講義でも日常生活でも制限を受ける学生を思いやってか、しばしば言われるのが、「学生さんたちは大変ですね」「かわいそうですね」という言葉です。

そう言われれば確かにそうかなと私も感じます。

しかし、スケートボード競技の選手たちを見ていると、コロナ禍の社会に生きることをネガティブに捉えるばかりでなく、

この閉塞感を打ち破る新しい術を編み出している、新しい価値観を着実に切り拓いているのだと思わずにはいられなかったのです。

私たちは、これまでに経験したことがないコロナ禍の只中に置かれ、これまでの行動や生活様式が通用しない新しい時代の入り口に立たされています。

ですから、見倣うことのできる前例などありません。

否応なしに、数多くの挑戦、すなわちトライ&エラーを積み重ね、新しい時代の新常識、いわゆるニューノーマルを試行錯誤の上に築かざるを得ないのです。

学生としてこのような時代に向き合う皆さんには、今が新しい価値を生み出すチャンスだと捉えてほしい、あくなき挑戦を続ける精神を持ち続けてほしいと願っています。

そして、いつか今の時代を振り返った時「自分達は新しい時代のパイオニアとして学生時代を過ごしたのだ」と胸を張って欲しいと思います。

今年最後になりましたが、最近新しい新型コロナの変種株の話題などが出ています。

まずは、自ら冷静に客観的に情報を収集し、大学の情報にも留意し、これまで通りの感染対策を続け、年末年始をお過ごしください。

元気な姿で、年明けにキャンパスで会えることを願っております。良いお年を！